



【学校教育目標】

自律・貢献・共生

所沢市立向陽中学校

所沢市向陽町2124 Tel.04-2923-7201

令和4年度第12号

3月1日(水)

言葉の意味を紐解いてみると

校長 沼田 芳行

今日は日本語についてのお話です。普段、日本語を使っている9割の方々がその意味を知らずに使っているのだとか。例えば、「山」の呼び方が違うのはなぜでしょう。富士山(ふじさん)に浅間山(あさまやま)。同じ「山」であるはずなのに呼び方が違います。他にも「立山(たてやま)」「磐梯山(ばんだいさん)」と違いがあります。近くで言うと「八国山(はちこくやま)」に「天覧山(てんらんざん)」も違います。この「～さん」と「～やま」は、どういうルールで呼び分けられているのでしょうか。日本には昔から、山を神聖なものとして信仰の対象とする山岳信仰があります。山は修験道(しゆげんどう)の場として崇拝されてきたとのことですが、すべての山が信仰の対象になったわけではないそうです。このことから、信仰の対象となった山は「～さん」、信仰の対象とならなかった山は「～やま」と呼ぶ説があるんだそうです。ただし、例外もあるそうで、浅間山は「あさまやま」と呼びますが、古くから山岳信仰の対象です。先ほどの立山も「たてやま」と呼び、日本三霊山(さんれいざん)のひとつとして信仰を集めてきました。古くから「～やま」と呼び習わされてきた山は、山岳信仰の対象であっても、「～さん」とは呼ばないのだそうです。面白いですね。



では、次のような例はいかがでしょうか？

校長室に聞きに来てもいいし、国語の先生にも聞いてみよう

①「赤い」「青い」とは言うけど、「緑い」「水色い」と言わないのはなぜ？

②「ごはん一緒に食べていきます？」→(返答)大丈夫です」これはYes、No どちらでしょう？

③電話に出る時の「もしもし」はそもそもどういう意味？

④「よろしくお願いします」と言いますが、「よろしく」を「お願いする」ってどういうこと？

⑤空から土も砂も降ってこないのに、なぜ「土砂降り」と言う？

他の例は自分で調べてみるのも面白いです。

解釈にこまるような事例ばかりでしょうか。このうち、⑤についてお話しておきます。

大粒の雨が激しく降ることが「土砂降り」ですね。なぜ、そういうのだろう？と一般的に聞いてみると「土砂が流れるほどの勢いがある大雨だから」と答える方が多いようです。しかし、実際にはそうではなく、「土砂降り」の「土砂」には、土や砂という意味はないのだそうです。激しい雨が降る音を表す擬音の「どしゃどしゃ」や「どしゃっ」から来ているという説があり、この「どしゃ」に「土と砂」の漢字を当てたとのこと。

考えてみると不思議なことや、意味もよく考えずに使っている言葉って整理してみると結構ありますね。例えば、「おはよう」「こんにちは」という挨拶の言葉もそもそもどういうところから来ているのでしょうか。「おはよう」は「お早く、起きられましたね」や「お早く、お着きになりましたね」の「お早く」が音変化して、そうなった言葉だそうです。「こんにちは」は「今日(けふ)はご機嫌いかがですか」「今日(けふ)は、良い日ですね」などに使われる「今日(けふ)は(こんにちは)」から来ているんだそうです。知識を習得して、「活用」する楽しさは深い味わいにつながりますね。こんなところから「文化の大切さ」が「豊かさ」につながるのでしょうか。豊かさは「心のゆとり」になります。